



Support

<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>

No. 15

平成29年3月21日

編集・発行

学校支援課 広報担当

次年度に向けた準備を

本年度も残すところ、あとわずかとなりました。
各学校におかれましては、重点として示しました

「組織的な取組による授業力の向上」

「自律性と社会性を育む生徒指導の推進」

「自立と社会参加の力を育む特別支援教育の推進」



学校支援課長 大井 隆

について学校体制で取り組み、教育活動の充実に努めていただきましたことに、深く感謝申し上げます。

今年度も、全ての学級の授業を参観させていただき計画訪問を、市内の幼稚園（5園）、小学校（57校）、中学校（29校）、中等教育学校（1校）、特別支援学校（1校）で実施させていただきました。

どの学校・園においても、学校の実態に応じて、組織的な取組が進められ、教員一人一人の課題意識に基づいて、工夫・改善のある授業が展開されていました。特に、中学校では「選択と集中」を意識し、重点化した取組をすることで、授業改革を図り、成果を上げている学校が増えています。このような取組が新潟市の学力の向上と深く結び付いていることを実感しております。

この「新潟市の学校教育」は、「学習指導要領」の趣旨と「新潟市教育ビジョン第3期実施計画」の基本価値を踏まえ、その実現を目指して設定しました。

学校教育の重点

- 組織的な取組による授業力の向上

日本の授業で「何を学んでいるのか」「どのように学んでいるのか」「何が分かりやすくなったのか」を児童生徒が自覚しながら学ぶ経験を積み重ねることにより、主体的・協働的に学び続ける学習能力が身に付き、確かな学力が育まれます。

そのために、日本の授業に「学習課題」「学びの場」「主体的・対話的で深い学び」のある授業を推進します。そして、目指す授業を実現するために「選択と集中」で取り組む内容を絞り、全教職員及び学校にかかわる人々が同僚性・協働性を発揮しながら授業改革を「やりきる」として取り組むことを目指します。
- 自律性と社会性を育む生徒指導の推進

児童生徒一人一人が社会の一員であることを自覚し、他者との関わりを高め、高め合いを求めて「自立」する態度の育成を図ります。教育活動全体を通じて「自律性」をめざすとともに、自主的に行動すると「社会性」（互いに認め合い、支え合い、認め合い）を育む生徒指導を推進します。

そのために、「授業づくりと生徒指導の一体化」や「学習・課後の活動を重視した特別活動」を中核として、「子どもを伸ばす」の視点から児童生徒の笑顔に輝いた具体的な手立てを立案・実践し、組織的・計画的な取組に取り組みします。

※「子どもを伸ばす」の視点：①学習意欲を高めること、②自己決定を促すこと、③協働性を発揮させること
- 自立と社会参加の力を育む特別支援教育の推進

高度社会の実現を目指すインクルーシブ教育システム構築のために特別支援教育を充実させます。特別な教育的支援を必要とする児童生徒がその能力や可能性を最大限に発揮し、自立と社会参加することができるように、一人一人の教育的ニーズを把握し、「個別的教育支援計画」の作成等を通じて「合理的配慮」を徹底し、適切な支援を届ける取組を進めます。

そのために、経費により教職員の専門性を高め、特別支援教育サポートセンターや区教育支援センターなど関係機関との連携をより一層進めます。

さて、30年度より順次実施となる「新学習指導要領」の趣旨と新潟市教育ビジョンを踏まえ、その実現を目指して、「平成29～31年度新潟市の学校教育」を設定し、先日、配付いたしました。また、来年度初めには、新潟市の課題でもある家庭学習の改善を図るため、教職員向けリーフレットを配付します。

29年度も、より一層充実した教育活動が行われますように、今年度の成果と課題を明確にするとともに、「新潟市の学校教育」及び各種リーフレット、ガイドブックをご確認いただき、学校・園の様々な計画、評価などをお考えいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

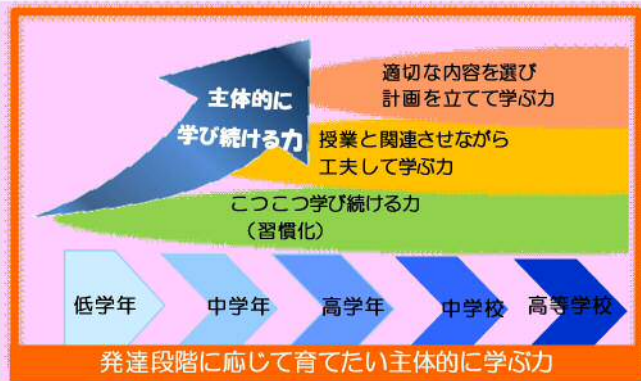
新リーフレット「新潟市の家庭学習」



29年4月に教職員向けの「新潟市の家庭学習」リーフレットを配付します。キーワードは「つなぐ」。授業と家庭学習をつなぎ、学年や校種を超えた学びや学び方をつなぐことで、児童生徒の学び続ける力を育むことをねらっています。（下図参照）リーフレットを参考に、学校、学級の実態に基づいたより効果的な取組を検討ください。なお、それぞれの学校の実態に応じた取組を進めやすくするために、これまで小学校1、3、5年、中学校1年で配付していた児童生徒向けリーフレットは、全市一斉での活用を中止します。

主体的に学び続ける力を育てる

発達段階に応じて重点的に育てたい「主体的に学び続ける力」(こつこつ学び続ける力、授業と関連させながら工夫して学ぶ力、適切な内容を選び計画を立てて学ぶ力)を明らかにし、学校体制で取り組むことで、効果が上がります。



全校体制で取り組むと…

- 学年が変わっても、教師が変わっても、児童生徒が戸惑うことなく学び続けることができます。
- 単年度では成し得ない、主体的に学び続ける力を段階的に育むことができます。
- 上学年の取組を目標として意識することが、児童生徒の意欲向上につながります。

各学校で、「何に重点をおいて継続させていくのか」を明確にして取り組むことが大切です。



こんな取組が

始まっています

授業とつながる家庭学習

家庭学習で「予習」や「復習」に取り組むことで、学びが連続し、学習内容が確実に定着します。

予習

予習すると…

- 分かっていることと、分からないことを自覚して授業に臨めます。
- 考えをもって話し合いに参加するため、学びが深まります。
- 事前に資料や教科書を読んでいるため、ゆとりをもって学ぶことができます。



授業



授業ノートが、授業と家庭学習をつなぐ重要なアイテムに！

復習

復習すると…

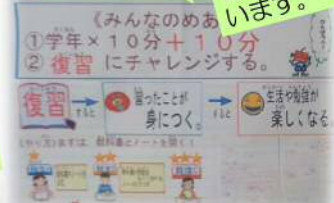
- 授業で学んだ知識・技能を確実に身に付けることができます。
- 思考の過程を振り返ることで、学び方を身に付けることができます。
- 学んだことのよさが実感でき、次の学習への期待が高まります。



早通小学校
級外の先生方が授業の振り返りの点検を担当。朝学活前に、職員室に家庭学習ノートが集まっています。



山潟小学校
全校で復習にチャレンジ！子どもは復習をすることの効果を感じ始めています。



光晴中学校区
小中連携の部会で家庭学習を話題に話し合いました。小中の学びの連続を図っています。

松浜中学校
学年で家庭学習の課題を統一。「本日の自学課題」コーナーがどの学級にも設けられています。また、全校で、終学活に家庭学習の計画を立てています。

